# 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

<u>【于术//////                               </u>					
事業所番号		2491400061			
法人名	ヘルスケアサポート株式会社				
事業所名	<b>グ</b>	ループホームいなべ			
所在地	三重県いなべ市員弁町松ノ木367-1				
自己評価作成日	平成26 年 9月 13 日	評価結果市町提出日	平成27年1月20日		

### ※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック) 基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.ip/24/index.php?action\_kouhvou\_detail\_2014\_022\_kihon=true&JigvosvoCd=2491400061-008PrefCd=248VersionCd=022

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

	評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会	
所在地 津市桜橋2丁目131			
	訪問調査日	平成 26年 10月 1日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のペースで生活して頂くよう心掛ける。

いつもそばに人がいることを感じて安心して過ごしていただく。

|入居者同士のつながりを大切にしていただきます。

家族様には 今の状態を機会あるごとに お伝えする

家族様の不安や疑問の相談には積極的に対応する。

入居者様の年齢も上がってきて、心身的な衰え(低下)が見受けられので、日々の様子観察の徹底。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者・職員とも明るく生き生きとしており、利用者本位の家庭的で和やかな雰囲気のなか、職員は利用者との関わる時間を大切にし常に笑顔での会話と介護が行われている。健康面では協力医の月2回の往診、訪問看護師が毎週健康チェックに訪問され利用者の体調管理に配慮されている。又、重度化・終末期の支援についても、事業所の『看取り指針』を家族に説明し話し合いのうえ、協力医の指導と連携の下、家族の希望があれば見取りの支援をする方針であることから、家族も事業所と職員に全幅の信頼があり、理念の『笑顔と信頼』が実践されている。

#### ♥. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します 取り組みの成果 取り組みの成果 項目 項目 ↓該当するものに〇印 ↓該当するものに〇印 1. ほぼ全ての利用者の 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 1. ほぼ全ての家族と 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 |2. 利用者の2/3くらいの めていることをよく聴いており、信頼関係ができ |2. 家族の2/3くらいと 56 を掴んでいる ている 3. 利用者の1/3くらいの 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:23.24.25) 4. ほとんど掴んでいない (参考項目:9.10.19) 4. ほとんどできていない 1. 毎日ある 1. ほぼ毎日のように 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 2. 数日に1回程度ある 2. 数日に1回程度 $\circ$ 64 域の人々が訪ねて来ている 57 がある 3. たまにある 3. たまに (参考項目:18.38) (参考項目:2.20) 4. ほとんどない 4. ほとんどない 1. 大いに増えている | 1. ほぼ全ての利用者が 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 2. 利用者の2/3くらいが 2. 少しずつ増えている 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 【係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 58 (参考項目:38) の理解者や応援者が増えている 3. あまり増えていない 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない (参考項目:4) 4. 全くいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての職員が 0 利用者は、職員が支援することで生き生きした 2. 利用者の2/3くらいが 職員は、活き活きと働けている 2. 職員の2/3くらいが 59 表情や姿がみられている 66 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:11,12) 3. 職員の1/3くらいが (参考項目:36.37) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が |1. ほぼ全ての利用者が 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 2. 利用者の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが 60 る 67 足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:49) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない | 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての家族等が 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 職員から見て、利用者の家族等はサービスに 2. 利用者の2/3くらいが 2. 家族等の2/3くらいが 61 く過ごせている 68 おおむね満足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが (参考項目:30,31) 4. ほとんどいない 4. ほとんどできていない | 1. ほぼ全ての利用者が 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

|2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

# [セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.I	里念し	こ基づく運営			
		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	「笑顔と信頼」を理念とし、入居者様が、その 人らしく、そして笑顔で安心して、落ち着いた 生活を送っていただける様、サポートしてい る。	『笑顔と信頼』を理念とし、利用者本位の家庭的な雰囲気のなか、家族と地域とのかかわりを大切にし、笑顔とチームワークで、利用者ー人ひとりが地域の中で安心して暮らせるよう、心に寄り添う介護を実践している。	
2		〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	ご近所の皆様に、事業所行事(家族会、イベント、避難訓練等)に積極的に参加していただいたりしている。散歩で地域の方と話をさせていただく。	地域の方とは散歩時等、日常的に朝夕の挨拶を 交わしている。近所の畑で野菜の収穫を楽しませ てもらったうえ、収穫した旬の野菜は差し入れても らっている。地域のイベント(夏祭り等)には出来る だけ参加し、地域との交流を深めている。	
3			事業所での研修等に、地域の皆様に参加していただける様、働きかけている。 消火器訓練、AED講習など参加呼びかけ。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	運営推進会議への積極的出席をお願いし、 地域の方にグループホームの実態を認知し ていただく努力をする。	生委員、家族代表の参加で開催し、事業所 の運営状況等詳細に報告し、参加者からも 有意義な意見交換、歓談となっているが、開	運営推進会議は地域との連携や事業所の理解、支援を得るための貴重な機会である。身近なテーマで少人数の会議も含め、年6回定期的に開催し、利用者サービスの向上等事業所の運営に活かされることを期待する。
5	, ,	の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や地域包括支援センターなどの研修等への参加。職員間の伝達。入居希望状況情報伝達。家族会、避難訓練への市や地域包括支援センターの方の参加。	会や会議には出来得る限り参加し情報交換して	
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる		朝夕のミーティング時や施設会議(職員会議)で、 利用者の尊厳、どんなことでも寄り添い話を聞く、 不快になる言葉を掛けない等の話し合いがされ、 職員は身体拘束についての理解があり、身体拘 束のない支援に努めている。	
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で の虐待が見過ごされることがないよう注意を払 い、防止に努めている	日々のケアや対応が、虐待にならない様、 常に職員が意識しながら、自由に話し合え る機会をもっている。 カンファレンスでの確認。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>5</b>
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	加。 他の職員に伝達し、情報を共有して		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	利用者および家族の方々の利益・不利益にかかわらず説明し、理解をしていただいている。 苦情、相談窓口の説明。		
10	(6)		家族会・面会時に遠慮なく話せる関係づくりの構築。 施設での生活状況説明を機会ごとにさせていただき、家族の意向を理解させていただく。	面会時や年2回の家族会に事業所での諸行事を 写真を見てもらいながら暮らしの様子を報告し、家 族に意見や要望を聞いているが、現状は意見や 要望はないので、何事でも言ってもらえるような関 係づくりを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員全員が集まる時(施設会議等) に、意見を集約し、反映している。 介護の方針の徹底を行い、理解しあう。	施設長は常に介護の場に入るように心掛け、職員とのコミュニケーションを大切にしている。介護の場や朝夕のミーティング、毎月の施設会議で意見やアイディアを聞き入れ、レクリエーションの多くは職員の提案を実践している。	
12		務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	各職員にテーマ(各入居者担当者等)を与え、目標意識を持つ様、配慮している。 意見を出しやすい(言いやすい)職場つくり。		
13		進めている	施設会議において、テーマを決めて勉強会 を実施する。 経験の浅い職員のへ指導。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	同業者との交流を積極的に図り、情報交換等を通じ、サービスの質の向上に努めている。 連絡会への参加を検討する。		

自己	外	項 目	自己評価	外部評価	<b>I</b>
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II .3	子心と	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心出来る様に、ゆっくりとお話をして、信頼関係を作る努力をする。 本人様の不安な気持ちを察して話しの途中で口を出さず、入居者様の話しを最後までしっかり聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族の施設入所に対する不安要因に積極的に応えさせていただく。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の思いを受け入れ、他のサービスもあると紹介し、不安を取り除く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事や作業を一緒にしていただき、 共に笑ったり、支えあったりしながら生活す る。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	本人様が家族とのきずなを途切れないように、家族様の気持ちを大切にしていただく様、支援させていただく。		
20			家族・友達に面会に来ていただきながら、 ゆっくりと話をしていただく。 面会は積極的にお願いしている。 また、来れない家族には、電話などで近況 報告するなどに努めている。	面会時間に制限はなく自由に面会でき、馴染みの 方や友人、家族等多くの方が面会に来ている。地 域(近隣)の方とは日常的に近所付き合いがあり、 新しい馴染みの関係が出来ている。又、家族の協 力を得ながら従来のかかりつけ医への受診の支 援をしている。	
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	一緒に食事をとったり、助け合いながら、利 用者同士、話が出来る関係作りの支援をさ せていただく。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	ш
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供・支援・相談に快く応じ、家族様と の関係性を大切にする。		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	<b>-</b>		
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	出勤社員は、必ず一人一人に声をかけ、そ の日の精神・健康状態、不安をしっかり把握 する。 入居者の思い等を把握しながら、入居者の 意向に寄り添った支援をする。	思いや意向の把握は、利用者との関わる時間を 大切にし、会話の中から、その日の体調や表情・ 言動から把握するようにしている。把握した事は 毎月開催のカンファレンス時に情報交換し、全職 員が共有するようにしている。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人一人の生活歴を家族の方にお聞きし、日々の暮らしの中でも会話をしながら、その人の気持ちを知る。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人の体調に合わせて、一日の過ごし 方を把握し、畑仕事や洗濯物干し等出来る 事を、行なっていただいている。		
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンスを行なう。担当職員が主にモニタリングを行い、意見交換し、ケアマネージャーがサービス計画を作成する。面会時に家族の意見も聞き、サービス計画に反映している。	3ヶ月毎に利用者毎の担当者でモニタリングを行い、全職員が参加のカンファレンスで話し合い、カンファレンスで集約した事を基に計画担当者が概ね3ヶ月毎に計画の見直しをしている。利用者の体調に変化があればその都度見直している。	
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有。 日々の様子を介護記録に記入し、気付きを 職員全員が把握し、ケアプラン実施表に記 入し、申し送り等で情報交換し、確認する。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況に応じて、変化・意向に柔軟に対応して、支援を行なっている。 また、状況報告を家族にし、相談し、支援を 行う ようにしている。		

自	外	<b>哲</b> □	自己評価	外部評価	<b></b>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の散歩のおり、畑で作業の時等、 近所の住民の方々と挨拶をし、コミュニケー ションを良くしている。		
30	(11)	から、週別な区域を文けられるよりに文法している	2週間に一度、訪問診療に来ていただき、状態説明と報告をし、健康管理に気をつけている。不安がある時は、医師にすぐ連絡し、指示を仰いでいる。	従来のかかりつけ医で受診されているのは1名、他の方は家族の希望で協力医療機関がかかりつけ医となっている。協力医は月2回の往診、看護師が毎週健康チェック訪問されていることから、家族も安心であり、適切な医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	週に1度程度、訪問看護に来ていただいている。入居者の心身の状態を相談し、日常健康管理に努めている。 ケアの方法も相談する。		
32			日常的に医療機関等との交流の中で、家族様を含め情報交換を行なっている。 また、受診時、入院時には施設での状況を しっかり伝える。入院中も病院での状態把 握に努め、退院時には、入院中の看・介護 情報を得る。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	家族会等の交流の中で、話し合っている。 重度化やターミナルに向けての書類を交わ している。 状態変化があったら、その都度、医師を含 めた 話し合いの機会をもっている。	事業所としては、入居の契約時に『看取り指針』を 家族に説明し、看取り介護についての同意書が交 わされている。看取りについては利用者の体調を 見ながら、協力医の指導と連携の下、職員・家族 と充分話し合い、家族の希望があれば見取りの支 援をする方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	医療機関との24時間体制をとると共に、緊急時のマニュアルを作成し、職員への徹底とAED等の使用、人口呼吸法など、訓練を行なっている。		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	災害等に対するマニュアルを整備し、消防 署の指導による避難訓練(夜間帯を想定した)や自治会の方との交流を通じ、地域協 力体制を図っている。	事業所は、河川の氾濫・津波・山崩れの心配がない恵まれた場所にあるが、消防署の指導で定期的に火災を想定した防災訓練を実施している。6月には消火器の使用方法とAEDの操作訓練を行った。スプリンクラーを早期に設置するように検討している。	

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	惧	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.	その	人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
	,		プライバシーを損ねることなく、その方の人 格を尊重した声かけや話し方をしている。	人格の尊重、ブライバシーの確保は介護の基本と 意識し、利用者毎の癖や性格を把握して、利用者 が心地よいと感じられるように、利用者の話(言 葉)は否定せず、常に笑顔での言葉かけを、又、 排泄介助、汚れ物の始末は自尊心を損なわない よう心掛けている。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	入居者に合わせた声かけをし、表情に気を つけて、訴えを理解する様に心がけている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで自由に過ごしていただいている。レクリエーション等の参加も本人の意思を尊重して、対応している。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	自分で出来ることは、自分で行なっていただき、服装等も、本人のプライドを傷つけない様、さりげなく身だしなみを整えていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	入居者と職員で食事の簡単な下準備(机拭き・もやしのひげ取り・えんどうの筋取り) 等、を共に行なう。旬の食材を取り入れて、 季節感を味わっていただく。お楽しみ献立を 定期的に作り、目でも楽しんでいただく。	利用者の好みも取り入れながら職員で献立し、食材の買いの出しも行っている。事業所の畑と近所の農家から差し入れの旬の野菜たっぷり使い、職員が交代で手作りの美味しい料理が出されている。調査当日も、職員も同じ料理を同じテーブルでの楽しい食事となっている。	
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて、食事形態の 対応をしている。水分量が摂取できている か、食事摂取ができているか、チェックをし 記録している。		
42		人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ	食後の歯磨き・うがいを促し、義歯の洗浄の 声かけを行ない、出来ないところは、介助し ている。 必要があれば、訪問歯科へ依頼し、口腔ケ ア・治療等を行っている。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b></b>
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、排泄パターンを把握し、尿意の訴えのない方も、定期的に声かけし、トイレ誘導を行ない、不快感を軽減していただいている。	個々の排泄記録により排泄パターンの把握は出来ているが、表情を観察することで、食事前と昼寝前、夜寝る前には定期的に声掛けし、見守りと一部介助によりトイレで自立排泄することで、気分よく食事と安心して寝むりに付けるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排尿・排便間隔の確認をし、水分摂取・運動を心がける。食事にも野菜を沢山使用し、おやつにも工夫している。水分摂取できない方は、ゼリー等個々に応じた対応をしている。		
	(17)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	随時、入浴できる様にし、一人一人のタイミングに合わせて、個々に寄り添った支援をしている。 フロを楽しんでもらえる声掛けをさせていただく。		
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、ゆっくり休む時間を提供。夜間に 眠れない方は、一緒にテレビを見たり、ゆっ くりと話を聞き、安心していただける様、心が けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	一人一人の処方内容に基づき、服薬の見守り・確認を行なう。処方変更時には、様子観察の徹底。変化時等は速やかに医師に相談している。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみや掃除等、出来る作業を入居者に合わせてお願いしている。畑の草取り等、生活暦をくみ取り、楽しみながら過ごせていける様にしている。		
49	(18)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、外気浴や散歩に出かけている。畑仕事も入居者と地域の方との交流の場所となっている。家族の方にも、行事等に参加の呼びかけをしている。季節の花を見に出かけたり、催事に出かけている。	利用者1人ひとりのその日の希望に添って、近場の散歩、玄関先での外気浴、近所の方と畑の手入れや野菜の収穫が日課となっている。職員が買い物に行く時に一緒に出かけたり、季節に合わせ弁当持ちでドライブを兼ねての花見に出かける等多くの外出支援がされている。	

自	外	項目	自己評価	外部評価	<b>5</b>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	今は、お金を持つことに執着する入居者が 殆どみえない居ない為、所持はしていない。 必要であれば 施設で立替させていただく。 広告等をみながら、物価等について話し合 う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	入居時に、家族の了解をいただき、希望時 には、電話をしていただいている。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と台所が一体化されているので、職員 も入居者からも、様子が見え、安心感を与え ている。 手作り作品は、室内に掲示させていただく。 生花で季節感を感じていただいている。	居間と対面式にある台所は、見守りしながら利用者と一緒に食事の準備ができ、調理の時のいい香りが漂い食欲を誘い食事がより楽しいものとなっている。居間と廊下の随所に利用者の作品と、外出時やイベントの写真が飾られ、生活感・季節感が感じられる空間となっている。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	居室や廊下にソファーや長椅子を置き、またタタミの所で一緒に横になるなど、自由に話をされながら過ごしていただいている。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	本人の使い慣れた物を持って来てもらっている。衣類は、季節の変わり目に家族と相談して、入れ替えを行なっている。朝、窓の開閉等を行い、清潔保持をさせていただく。	衣類はクローゼットに整理整頓され、各居室とも清潔できれいにされている。使い慣れた家具や小物が持ち込まれ、壁やタンスの上には写真や飾り付けがされ、それぞれお気に入りの部屋づくりとなっている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	身体機能を維持する為、手すりの設置や歩 行器等、個々の状況に合わせて取り入れ、 見守りを行なっている。		